

教育行政報告

教育長 蜂屋寿雄

●経営所得安定対策の交付金は、「米の直接支払交付金」が対象面積二千二百六十七畝に対して十ヶ当たり七千五百円、村全体としては一億六千八百二十二万七千円となりました。

●転作作物を対象とした「水田活用の直接支払交付金」は「産地交付金」を含め、十億八千五百六十三万六千円となり、米の直接支払交付金と合せて十三億五千三百八十六万二千円が十一月二十六日に直接、国から農業者に全額交付されました。

●今年で4年目となるグリーンツーリズムは、五月二十九日の札幌の中学生の日帰り農家体験を皮切りに十二月十二日の農協観光主催の農感塾事業まで、十八回、のべ農家五十六戸で合計九百十七人の生徒を受け入れました。

●「多面的機能支払交付金事業」は、農地・水保全管理支払交付金同様に全村全地域を対象に村全体で約四千九百九十七畝、支援総額は農地維持支払資源向上支払と合わせて約一億八千三百八十二万円（うち、村負担額五千三百四万円）の計画となっています。

▽商工観光関係
●十月末をもって終了しました。キャンプ場の実績は、テント設置数、四千八百十二張（前年比三十五%増）、有料入場者数一万七千九百七十七人（前年比十一%増）、売上収入が約六百七十九万円（前年比二十三%増）となりました。

●ふれあい農園は十月末をもって終了。

利用状況は百二十四区画中、百十三区画の利用をいただきました。

●ふれあい公園パークゴルフ場は、十一月二十四日をもって終了。入場者数は八千六百七十一人（前年比十四%増）となりました。

●今年で四年目を迎えた「しんしのつ産直市場」は、十一月三日をもって今年度の営業を終了。産直市場の決算は、売上が約四千九十一万円、来場者が約四万二千九百人と報告があり、前年を上回る実績となりました。新たに増設したフードコート（たつぶの湯運営）も、来店者が約九千人で約四百八十万円の売り上げと報告されています。

●外国人観光客の誘致については、本年度より、北海道の緊急雇用創出事業「外国人おもてなし人材育成事業」により、外国人観光客受入れの体制整備を目指し、語学及び接遇などの研修を行っています。六月からは、交流参加型国際観光地づくりモデル促進事業に、候補地としてエントリー、石狩・空知・胆振・日高エリアに、新篠津村が選定されました。現在、たつぶの湯では、ハード・ソフト両面の体制を整備したところですが、十二月上旬からの受入れに対し、関係者と連携を取りながら、外国人観光客の誘致を図っていきたくと考えています。

▽建設工事関係
●十月二十四日、村道及び公共施設の除排雪委託業務を発注しました。

▽小学校関係

●十月二十五日、新篠津小学校で第三十七回学芸会が行われました。

●十一月十三日、明年入学予定の男子十名と女子十名の計二十名が、小学校で「発達検査」と「就学時健康診断」を行い、学校行事の紹介や学校内の見学をしました。

●十一月二十日、六年生を対象とした料理教室を実施しました。今回は北海道工ゾシカ対策課からのご協力を頂き、たつぶの湯料理長を招いて、エゾシカ肉を使ったカレーやローストなど三品の料理を作りました。

▽中学校関係

●九月二十七日、新篠津中学校で第四十八回学校祭が開催されました。

●十一月二十九日、兵庫県南あわじ市で、第八回アジア国際子ども映画祭が開催され、この大会に北海道ブロックの代表として参加した新篠津中学校三年生藤森敬貴くんの作品が見事入賞しました。今大会には日本や中国など十七カ国の子供たちが参加。「わたしの夢」をテーマに、約三百作品が展覧され、その中で、上位十位以内に贈られる入賞は快挙であります。

▽高等養護学校関係

●十一月十四日・十五日、新篠津高等養護学校で、新高祭が行われました。

▽給食センター関係

●九月二十三日、給食センター厨房に食器洗浄機を設置。これにより、作業時間の短縮と調理員の過度な労働負担が軽減され、効率のよい給食の提供が図られています。

▽社会教育関係

●九月七日、「劇団たんぼぼ」による演劇公演を開催しました。この公演では、新篠津小学校の児童十名が、役者として出演し、稽古・本番を通して、表現することを体験しました。

●十月三十一日から十一月二日、「新篠津村総合文化祭」を開催し、村民の皆さんから出展された千百十五点の作品を展示しました。三日間で述べ七百八十人の方々が鑑賞されました。

●十一月十日、道民カレッジ連携講座「生きがいづくり生涯学習促進事業」人生を豊かに過ごすために「肩を開放」を主催。『肩が軽くなった』など効果を実感されている参加者が多く、有意義な学習の機会となりました。

●十一月十五日、第七十回青年団弁論大会が開催されました。青年六名の弁士が自らの体験談や日ごろの思いなどを発表しました。来年は連合青年団創立七十周年記念事業として開催することから、節目に相応しい記念の弁論大会となることを期待しています。